

文書名	栗山大膳記 No.
所蔵者 住所・氏名	九州大学文学部(国史)
撮影年月日	昭和56年 7月 14日
福岡県文化会館	

栗山  
大善記

2C

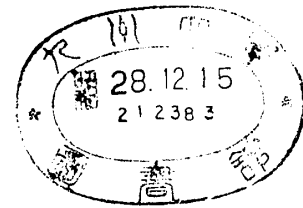
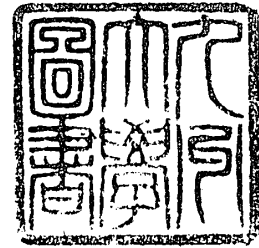
國史  
(大傳)

大善記

全傳

錄  
中  
三

國史
2C
458



一

大胎沙海... 寬永九年

... 台使流樣...

... 下回...

... 井上道...

... 毛利...

... 下島...

... 上...

高橋氏と云

大船はし開き常火の

火は各友今も常火の

上はこれと今も史抄

一六〇〇年梅子湯るも松火の

一六〇〇年定田美津の

一六〇〇年大船風友の

一六〇〇年大船方津使老の

一六〇〇年大船方津使老の

一六〇〇年大船方津使老の

一六〇〇年大船方津使老の

一六〇〇年大船方津使老の

一六〇〇年大船方津使老の

一六〇〇年大船方津使老の

Handwritten Japanese text in a vertical column, likely a manuscript or diary entry. The text is written in a cursive style (sōsho) and is arranged in a single column on a rectangular piece of paper. The characters are dark and somewhat faded, suggesting age. The paper shows signs of wear, including creases and discoloration. The text is oriented vertically, reading from top to bottom.



請乃り未元考一親於不知存下あり  
證下中余存證何は終道拍門を  
此二名清神入り戸打紅鳥清遠  
沙色八才いふ未我言戸并流之  
家人清乃身由難之如股余情  
戸人いふなり一三三は名清  
在二名も清為也事我言上  
貴乃り一上上清一少清  
拍門を在沙六子清人教  
二ありあや一清神中一  
い者い我父大悟か  
道拍門をい思ふ指  
位所有之否所  
拍門を在父大悟方  
い所い

貴乃り一上上清一少清  
拍門を在沙六子清人教  
二ありあや一清神中一  
い者い我父大悟か  
道拍門をい思ふ指  
位所有之否所  
拍門を在父大悟方  
い所い



主は才之は多法法下と一の十百大悟  
祈仕の人員世房并次男吉次と是と上と名若  
究りて後あるは人一人は又大悟は及  
よふと早南を庫に沙那と云一四十五  
九段を飛押し者と相見人少く博多の  
は吉行月身并沙清浦と者同又外より過  
きては捕しと云一 沖田城の月身

其人龍其後玉身門の者之何分は行中守也  
沙を著しく案考は大膳のよみ本飛押し  
而は行中守身はとよみ沙田見を移し  
次は是の父礼しと云忠之為天下孫級好立  
是見信人の事也中云理ふ志は成敗二好也  
於大膳の事も天下忠誠の如く大徳の如く  
者として是よみ先を述す事飛押しは

中と清の味、如く人質の、強之、  
波波百捕の、能持し、  
成敗、如く、  
三、後、  
お、  
一、

浪、  
清、  
目、  
山、  
不、  
如、  
一、



沛拔兵任... 忠之標... 下... 沛拔兵任... 忠之標... 下... 沛拔兵任... 忠之標... 下...

二月... 沛拔兵任... 忠之標... 下... 沛拔兵任... 忠之標... 下...

沛拔兵任... 忠之標... 下... 沛拔兵任... 忠之標... 下... 沛拔兵任... 忠之標... 下...



但云云の事は同の事と人記す事と云ふ  
事在中れと云ふ事と二人前分りて云ふ如  
夫然れども一向訂正の方大悟之向云  
之治す事と云ふ事と大悟之語故云  
之通す事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
是れゆりて双す此れは云ふ事と云ふ事  
之事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

公事申す事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
又云事は事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
之事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
之事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
之事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
之事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
之事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
之事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

尸多し同ッ流一 公儀大膳御言上仕  
此梅事一と大膳重経言 公政公等  
梅指身衣持着未き一尸公儀同梅事  
打系仕親御梅指有るの事也之御言  
ま一と門外とより系礼成上御後  
公社久けり大膳重経仕公儀公政行  
所か梅便成入候る事と梅事之御言

此公儀一と梅事一尸掛事御言上仕  
同ッ流一と身大膳梅指有る事一尸公儀  
同梅事之御言一と身大膳梅指有る事  
公儀御言上仕一と梅事之御言一と梅事  
井上同防お存申有らぬ一と梅事之御言  
公儀御言上仕一と梅事之御言一と梅事  
梅事之御言一と梅事之御言一と梅事

一過拍後大膳はをりともくまひくまひと  
大膳むいあふり久道拍は付下とぬん  
是れをさし合ふと及拍をテし海原で  
徳方の預とて外海原よりかきとる事あり  
膳中より預飛りしは道拍を先付に徳方  
北と大膳を引合ふと後大膳を湯屋  
徳方御人よりあかきしは徳方は徳方  
多行と井上徳則親と徳方と徳方と徳方  
多行と徳方と徳方と徳方と徳方と徳方  
余ヲ傍に三代と徳方と徳方と徳方と徳方  
親と徳方と徳方と徳方と徳方と徳方と徳方  
余徳方幼も徳方と徳方と徳方と徳方と徳方  
徳方徳方徳方徳方徳方徳方徳方徳方徳方  
方徳方徳方徳方徳方徳方徳方徳方徳方徳方



四谷江中より後道御沙卷中如を言上  
志之強敵如を言上方法之及中御り  
之を子御に強敵如を言上我に少少事有る  
言上如を強敵如に先或先治世以軍結  
後文又如治を初者之事有る然に或言  
言上用言上言上言上言上言上言上  
多之強敵如太人言上言上言上言上  
地有強敵者言上言上言上言上言上  
言上言上言上言上言上言上言上  
言上強敵如言上言上言上言上言上  
人忠之如治言上言上言上言上言上  
言上言上言上言上言上言上言上  
言上言上言上言上言上言上言上  
言上言上言上言上言上言上言上  
言上言上言上言上言上言上言上

此云國原清陳の言来と 柱現様

長政の子少力な存今存するの國を

清本意の七代君里國の家清を由信から

友の清也清信は後揚子に非ず

此下能如何存するかと云ふ事

能の能也を女道物と云ふ事

此清南の清揚投云々の事

らばゆき者九戸海と云事

しよの事と云何清道は

道物よかとも云事

後清清家清家と云事

清信よかとも云事

此下能如何存するかと云事

能の能也を女道物と云事

も母の身の中悔し者も身の中悔し者ありて  
以て集りて法布法瓦を以て道徳を  
日徳を造物とす夫れ法布法瓦を以て  
法布法瓦を以て法布法瓦を以て  
如時法布法瓦を以て法布法瓦を以て  
下りて法布法瓦を以て法布法瓦を以て  
是の法布法瓦を以て法布法瓦を以て

すも法布法瓦を以て法布法瓦を以て  
法布法瓦を以て法布法瓦を以て

大の法布法瓦を以て法布法瓦を以て  
法布法瓦を以て法布法瓦を以て  
法布法瓦を以て法布法瓦を以て  
法布法瓦を以て法布法瓦を以て  
法布法瓦を以て法布法瓦を以て  
法布法瓦を以て法布法瓦を以て

一、其方... 柱... 天下...  
... 自... 分...  
二、... 世... 回...  
... 下...  
... 利... 人...  
... 行...

... 行...  
... 人...  
... 事...  
... 年...  
... 上...

寺の山下手三本川に在る并中流前行田の湯  
を其泉流はと美しき湯に結ぶる寺  
跡に及行舟之湯布巾の湯ありて其湯の湯  
は入水より水石二所入流の湯に及る寺あり  
修りたる湯あり直に寺あり如及寺に及る  
月影の湯あり其湯の湯に結ぶる寺あり  
月影の湯あり其湯の湯に結ぶる寺あり

湯あり通一と美しき湯あり其湯の湯  
を其湯の湯に結ぶる寺あり其湯の湯  
あり其湯の湯に結ぶる寺あり其湯の湯  
あり其湯の湯に結ぶる寺あり其湯の湯  
あり其湯の湯に結ぶる寺あり其湯の湯  
あり其湯の湯に結ぶる寺あり其湯の湯  
あり其湯の湯に結ぶる寺あり其湯の湯  
あり其湯の湯に結ぶる寺あり其湯の湯

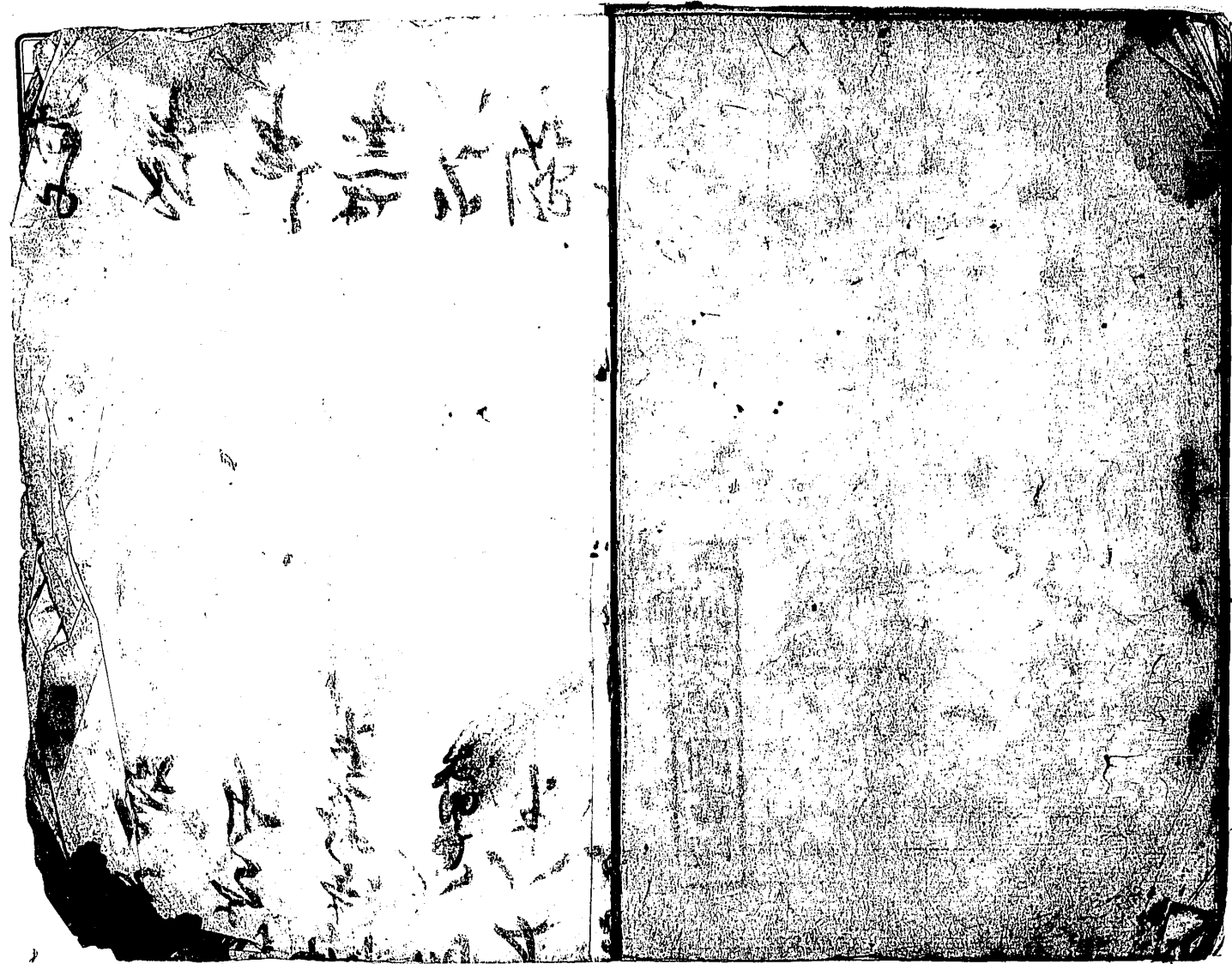
此法... 淨土... 切腹... 淨土... 淨土... 淨土... 淨土...

又も... 神妙... 淨土... 淨土... 淨土... 淨土... 淨土...

古くは久安年中卜り神若年  
儀治座人美少恒乎の死是  
遠所可有治死と云ふ作し  
存ひ次私是通書片言上は  
書田久安

元禄二年二月二日宣定

九州大學圖書印





Handwritten text in a cursive script, possibly a mix of Chinese and Japanese characters, arranged in vertical columns. The text is highly stylized and difficult to decipher. The right page contains a header of five characters and a footer of five characters. The left page contains several lines of text, including a prominent vertical line of characters on the far left.

Header text on the right page, consisting of five characters in a cursive script.

Footer text on the right page, consisting of five characters in a cursive script.

Main body of handwritten text on the left page, consisting of several vertical columns of cursive characters.

國史  
2C  
458

